076

日蓮大聖人御書全集

行敏御返事（ぎょうびんごへんじ）

新版867～868

行敏御返事

文永8年（'71）7月13日　50歳　行敏

〈行敏からの初度の難状〉

いまだ見参に入らずといえども、事の次いでをもって申し承るは、常の習いに候か。

そもそも、風聞のごとくんば、立つるところの義、もっともももって不審なり。法華の前に説ける一切の諸経は皆これ妄語にして出離の法にあらずと〈これ一〉。大小の戒律は世間を誑惑して悪道に堕とさしむるの法なりと〈こ

れ二〉。念仏は無間地獄の業なりと〈これ三〉。禅宗は天魔の説、もし依って行ずる者は悪見を増長すと〈これ四〉。事もし実ならば、仏法の怨敵なり。よって対面を遂げて悪見を破らんと欲す。はたまたその義無くんば、いかでか悪名を被らざらん。痛ましきかな。是非につけ、委しく示し給わるべきなり。恐々謹言。

七月八日

日蓮阿闍梨御房

僧行敏　在判

〈行敏への御返事〉

条々御不審のこと、私の問答は事行き難く候か。
しかれば、上奏を経られ、仰せ下さるるの趣に随って、
是非を糾明せらるべく候か。かくのごとく仰せを蒙り
候条、もっとも庶幾するところに候。恐々謹言。

七月十三日　　日蓮　花押

行敏御房御返事